

# 保育者の常識に関する意識調査

—保育者を目指す学生へのアンケート分析から—

柴田 智世

愛知学泉短期大学

## A Survey of Common Sense as Demonstrated by Early Childhood Education Student Teachers in Preschool and Kindergarten Classrooms

Tomoyo Shibata

キーワード: 保育者養成 early childhood education student teachers、意識調査 survey of common sense、保育所 preschool、幼稚園 kindergarten

### はじめに

保育所や幼稚園が求める人材として、保育現場から「一般的な常識がある人」という回答が返ってくるが多々ある。

その背景として考えられるのが、「保育者としての知識・技能・技術は、就職後に仕事をする中で習得していくことが可能であるが、一般常識に関しては社会人になる者として、すでに身に付けられていることを前提として採用したい」という園側の意図であると思われる。

また、中田(2008)によれば、「養成段階には保育者の資質として人間性と専門知識の獲得が要請されており、研修段階では実践能力の獲得が要請されていることが明らか<sup>1)</sup>」になっているとされている。一般常識やマナーに関しては、「大人として社会人として振る舞うことが求められていることが分かる。こうした保育者としての保育技術だけではなく、社会人としての常識やマナーなども保育者養成機関に強く求められている。」<sup>2)</sup>ことを述べている一方で、「社会人として必要とされる能力は、人間形成そのものに関わる部分であるだけに、養成段階だけ

で獲得することが困難であろう<sup>3)</sup>との指摘もしている。

本研究を行うにあたり、園長経験者でもあり、保育者養成校にも長年にわたって勤務されてきた元保育者2名に対し、保育者を目指す者の常識に関しての聞き取り調査を行った。ここでは、掃除の仕方について焦点を当て、これまでの経験を踏まえて、実習生に対して気づいた点を挙げてもらった。2名に共通して挙げられたことは、次の2点であった。

- ・園で掃除を依頼すると、実習生はすぐに「掃除機はどこにあるか」と尋ねる。本来、掃除は、ほうき・ちりとり・はたき・雑巾を使って行うものである。“掃除といえば掃除機”という概念が強いのが、実習生の傾向である。

- ・実習生は、自身は掃除の仕方を身に付けていると高く評価しているかもしれないが、園側としてはそうではないと厳しく評価しているのではないかと。つまり、自己評価と現実には乖離があるのではないかと。

これらの指摘から、掃除の仕方に関しては、先の元保育者(2名)に対する聞き取り調査の結果のように、「本来、掃除は、ほうき・ちりと

り・はたき・雑巾を使ってするもの」という概念と、学生の「掃除は掃除機でするもの」という概念の違いから、学生にとっての常識とは何かを把握することが必要であろう。

こうした先行研究や、聞き取り調査の結果を勘案し、本稿では学生達は保育者を目指す者としての常識を身に付けていると、どの程度評価しているのかを調査することで、学生にとっての常識と、園側の常識とのずれを分析する。そして、今後の保育者養成において学生の一般常識やマナーを指導していく上で、どのような課題があるのかについて明らかにしたい。

## 1. 目的と方法

筆者の担当する授業「カリキュラム研究」(幼稚園免許・保育士資格取得のためには必修科目)を受講している、本学幼児教育学科2年生を対象に、本授業内で質問紙表によるアンケート調査を行った。実施日は2012年7月27日、7月30日の2回に分けて行った。配布数・回収数ともに101部(回収率100%、有効回答数100%)であった。

質問紙表の調査項目の作成にあたっては、『これだけは身につけたい 保育者の常識67』(谷田貝公昭・上野通子著、一藝社、2006年)<sup>5)</sup>を参考にし、本文中に記載されている全67項目を精査し、それらを44項目に絞って調査項目を作成した。

1つ目の質問では、44の項目について、それぞれ「きちんとできる」「だいたいできる」「あまりできない」「できない」の4段階で学生に評価してもらった。

2つ目の質問では、「実習中に、あなたの常識と園の方針・考え方にギャップがあると感じたことを、具体的に述べて下さい。」とし、自由記述での回答を依頼した。

3つ目の質問では、「掃除の仕方についてお聞きます。あなたが家で掃除をする時に、使用する道具についてあてはまるものを選んで下さい。」とし、掃除道具(8種類)のそれぞれについて、「たいへんよく使う」「時々使う」「ほとんど使わない」「全く使わない」の4段階での評価を依頼した。

4つ目の質問では、「正しい掃除の手順を示したものを、ア～カよりひとつ選んでください。」とし、「掃き掃除」「片付け」「拭き掃除」の3つを、正しい掃除の手順となるように並べてもらい、6パターンの選択肢の中からひとつを選んでもらった。

## 2. 結果と考察

### (1) 44の項目についての4段階評価の結果と考察

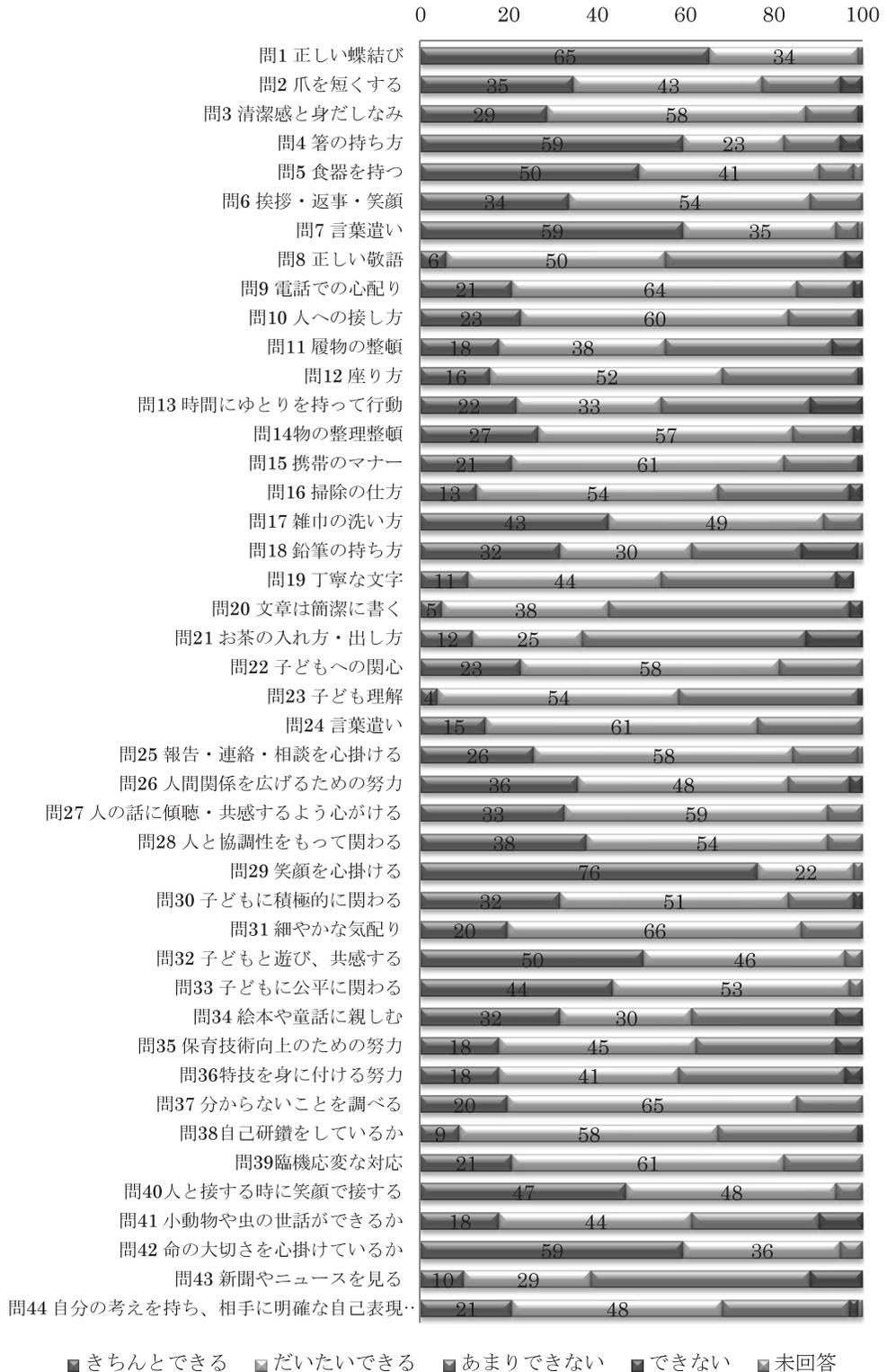
1つ目の質問である「問1～44の項目について、自己評価をして、評価欄1～4の該当するものに○を付けて下さい。」では、図1のような結果が得られた。

「きちんとできる」と評価している項目で値が高いものは、「問29 笑顔を心掛ける」(76%)、「問1 正しい蝶結びができるか」(65%)、「問4 箸の持ち方」「問7 言葉づかい(『ありがとうございます』『すみません』などの言葉を場に応じて使っているか)」「問42 命の大切さを心掛けているか」(59%)であった。

「きちんとできる」「だいたいできる」の値を合計し、8割以上の値を示したものを抜粋し、表1に示した。

「あまりできない」「できない」を合計し、値の高いものは、「問21 お茶の入れ方や出し方を知っているか」(63%)、「問43 社会の状況を把握するために、新聞やニュースを見るようにして

図1 常識についての意識調査 (%) n=101



いるか」(62%)、「問 20 文章は分かりやすく簡潔に書いているか」(57%)であった。

**表1 保育者を目指す人の常識について**  
(「①きちんとできる」「②だいたいできる」を合計し、8割以上を示したものを図1より抜粋)

問	項目	①、②の合計
問1	正しい蝶結び	99%
問3	清潔感と身だしなみ	87%
問4	箸の持ち方	82%
問5	食器を持つ	91%
問6	挨拶・返事・笑顔	88%
問7	お礼やお詫びの言葉を使うことができている	94%
問9	電話での心配り	85%
問10	人への接し方	83%
問14	物の整理整頓	84%
問15	携帯電話のマナー	82%
問17	雑巾の洗い方	92%
問22	子どもへの関心	81%
問25	報告・連絡・相談を心掛ける	84%
問26	人間関係を広げるための努力	84%
問27	人の話に傾聴・共感する	92%
問28	人と協調性をもって関わる	92%
問29	笑顔を心掛ける	98%
問30	子どもに積極的に関わる	83%
問31	細やかな心配り	86%
問32	子どもと遊び、共感	96%
問33	子どもと公平に関わる	97%
問37	分からないことを調べる	85%
問39	臨機応変な対応	82%
問40	人と接する時に笑顔で接する	95%
問42	命の大切さを心掛けているか	95%

以上、全44項目中25項目において、8割以上の学生が「きちんとできる」「だいたいできる」と評価していることは、率直に述べて意外な結果であった。なぜならば、「問15 携帯電話のマナー(82%)」を例に挙げると、筆者の担当している授業中には、携帯電話の使用を禁止し、机の上には置かないこと、携帯電話を鞆の中に入れておくこと、を毎回の授業の始まりに指導をしている。しかし、実際には机の上に置いている者や、膝の上に置いて携帯電話を触っている者もいる。授業中の教室内のコンセントから充電をしている者さえいる。こうした授業中の実態については統計的な詳細のデータはないが、携帯電話のマナーについて82%の者が「きちんとできる」「だいたいできる」と、自分自身を優位に評価しているという結果に、今回の調査と学生の実態との乖離を感じている。

また、同様なケースでは、「問7 言葉遣い『ありがとうございます』『すみません』などを使うことができている」であるが、これも「きちんとできる」「だいたいできる」と答えた者が94%と高い評価を示している。しかし、実際に学生と関わっていて、学生がそうした言葉遣いが身につけているかという点、そうでもないと思われることも多い。この点についても、先ほどと同様に、統計的なデータはないのだが、具体的な一例では、『ありがとうございます』が『ありがとう』と省略されて、教職員に対して使われる場面に遭遇することが多々ある。

こうしたことから考察すると、疑問点として挙がるのは、先ほども述べたように、今回のアンケート調査で、全44項目中25項目において8割以上の学生が「きちんとできる」「だいたいできる」と評価しているという点である。学生自身は「自分は分かっているし、常識として身に付けている」と高く評価しているが、現実には、

学生たちが実習先で園側から、「最近の学生は当たり前のことができない」「常識を知らない」等の厳しい評価を受けていることは、園側は学生と同様の評価はしておらず、学生が思っているよりも上のレベルを要求しているということであろう。

また、「問 8 あなたは正しい敬語を使うことができますか」では、「きちんとできる」「だいたいできる」をあわせて 56%、「あまりできない」(41%)、「できない」(4%)であった。このことから、約半分の学生が、正しい敬語を使うことに未熟さを感じているということが分かる。これは、学内で教職員に対しても友達同士と同様の言葉遣いで接することが日常的であることから妥当であろう。

## (2)「実習中にあなたと常識と園の方針・考え方にギャップがあると感じたことを、具体的に述べて下さい。(自由記述)」の結果と考察

この問いに関しては、35 の回答が得られた。それらの内容を分析し、①保育方法や子どもへの援助に関すること、②保護者との関わり方に関すること、③園の先生と実習生との人間関係や、先生方同士の人間関係に関すること、④実習生としての基本的な態度(服装、身なり、言葉遣い)に関すること、⑤その他、の5つに分類することを試みた。

その結果、一番多かったものは「①保育方法や子どもへの援助に関すること」で 43%であった。続いて「④実習生としての基本的な態度(服装、身なり、言葉遣い)に関すること」29%、「③園の先生や、先生方同士の人間関係に関すること」14%、「②保護者との関わり方に関すること」6%、「⑤その他」9%であった。

このことから、学生は今まで経験してきた自

分の考え方や常識と、実習園のそれとに少なからずギャップを感じていることが分かる。中にはその他(9%)の意見として、「実習では学ぶことが多く、共感も多かったため、ギャップがあるとは思わなかった」という意見もあった。

## (3)「あなたが家で掃除をする時に、使用する道具についてあてはまるものを選んで下さい。」の結果と考察

この問いに関しては、図 2 のような結果が得られた。

「大変よく使う」と答えた中で、値が高いものは、掃除機(77%)、フローリング用掃除具(33%)、雑巾(19%)である。

「大変よく使う」「時々使う」の値を足した合計が高いのは、掃除機(93%)、雑巾(64%)、フローリング用掃除具(63%)である。特に掃除機の使用頻度が高く、9割以上の学生が使用していることが分かる。

次に、「全く使わない」と答えた中で、値が高いものは、はたき(50%)、モップ(46%)、ちり取り・バケツ(38%)である。

「全く使わない」「ほとんど使わない」の値を足した合計が高いものは、はたき(80%)、ちり取り(71%)、バケツ(70%)、ほうき(66%)、モップ(65%)である。

これらの結果からも分かるように、先ほど述べた元保育者への聞き取り調査の結果である「本来、掃除は、ほうき・ちりとり・はたき・雑巾を使ってするもの」という概念と、学生の「掃除は掃除機でするもの」という考え方の違いがここに明らかになっている。

今回の調査では、家庭で掃除をする際の方法についての調査・分析であるため、幼稚園や保育所でのデータと比較した分析はできないが、

図2 掃除道具の使用頻度について (%) n=101

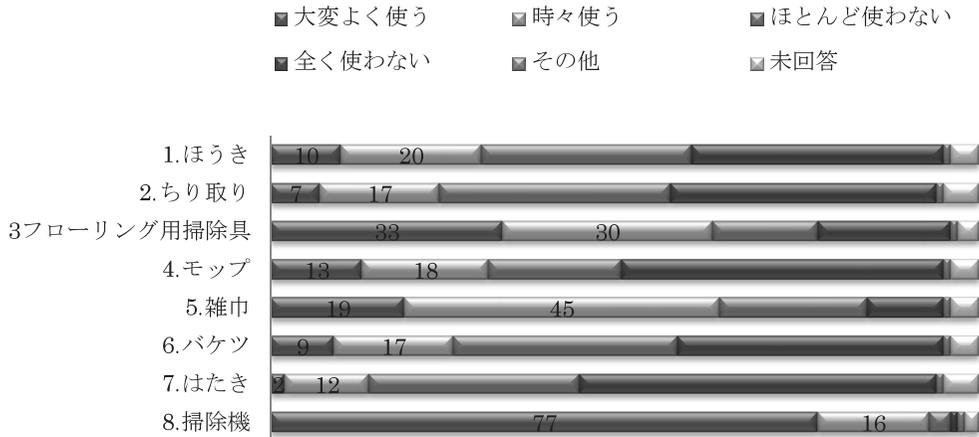


図3 家庭で使用する掃除道具

(図2で挙がっている物以外で自由記述) n=101

番号	掃除道具名	人数
1	粘着カーペットクリーナー	31人
2	スポンジ	5人
3	新聞紙、歯ブラシ、タオル	3人
4	綿棒、ガムテープ、除菌スプレー	2人
5	窓の水分をゴム面で取る道具、窓用スプレー、カビ取り用洗剤、アルコール除菌液など	1人

その点を踏まえたうえで考察したい。

園での実習時に、「学生がほうきの使い方を知らない」「雑巾の正しい絞りができない」などの園からのコメントは枚挙にいとまがない。

ほうきについては、「ほとんど使わない」「全く使わない」と答えた者が66%おり、ちり取りについても、77%の者が「ほとんど使わない」「全く使わない」と答えている。その一方で、掃除機の使用頻度の値が特に高いことから、家庭では掃除機を多用していることが分かる。そのため、家庭での掃除方法と、園でのそれとに、大きな違いがあることが明らかになっていることが分かった。学生にとっての掃除の常識は、「掃除機を使用すること」であり、各家庭で養われた習慣とも言えよう。しかし、それが園の先生から見て、「掃除の仕方の常識を心得ていない」という評価につながっていると思われる。

雑巾の使用については、64%の者が「大変よく使う」「時々使う」と答えており、使用頻度としては、高い方であると言えるが、「雑巾の正しい絞りを知らない」という園からの意見が頻繁に聞かれる。雑巾は6割の人が間違った絞りをしているというデータもある。<sup>4)</sup>

そこで、今回アンケートをとった学生を含め、本学幼児教育学科2年生111名に対し、雑巾の絞りがイラストで5パターン描かれた質問紙表を配布し、「あなたの雑巾の絞りで一番近いものをひとつ選んで下さい」と尋ねた。(実施日は2012年9月5日、筆者の担当する「地域と子育て支援」の授業時にて配布・回収し、回答を得た。(回収率100%、有効回答率100%)

その結果、正しい絞方(雑巾を縦に持って絞る)を回答した学生は20.7%であった。そして、間違った絞方(雑巾を横に持って絞る等)は75.7%、その他は3.6%であった。

このことから、正しい雑巾の絞りの技術が

未習得であったり、間違っ理解したりしている者も多いことが明らかになった。また、このアンケートを行った際、学生から挙げた声の中に「自分はこれまで間違った絞りをしていたことが今回のことで分かったが、これまでもきちんと絞ることができてきていると思うため、今回正しい答えが分かったからと言って、直そうとは思わない。」と感想を口にしている者も見られた。この点については、これまで培ってきている本人の考え方が強いいため、学生の正直な気持ちであろう。

#### (4) 「(3) で挙げられている掃除道具以外で、あなたが使用する掃除道具を挙げて下さい。(自由記述)」の結果と考察

図3の通り、最も多かった回答は、じゅうたんのゴミやほこりを手軽に取ることができる「粘着カーペットクリーナー」と回答した学生が31人であった。

次に多かったのは、「スポンジ」で5人である。

また少数ではあるが、「新聞紙」「歯ブラシ」「タオル」は3人と回答した者もあり、使わなくなった物を再活用していることも分かった。

#### (5) 「正しい掃除の手順を示したものを、ひとつ選んで下さい。」の結果と考察

これは、「A 掃き掃除」、「B 片付け」、「C 拭き掃除」の3つをそれぞれイラストで示し、6パターンに並べた選択肢から、正しい物をひとつ選んでもらった。

この問いの正解は、「B 片付け→A 掃き掃除→C 拭き掃除」の順である。結果として、正解率は81.2%であった。不正解は16.9%、未回答は

1.9%であった。

不正解の内訳としては、「B 片付け→C 拭き掃除→A 掃き掃除」を選んだ学生が 14.9%、「A 掃き掃除→C 拭き掃除→B 片付け」を選んだ学生が 1%、「C 拭き掃除→B 片付け→A 掃き掃除」を選んだ学生も 1%いた。

これと関連して、先の図 1 に示した「問 16 掃除の仕方の手順を理解し、身に付けていますか」の問いには、「きちんとできる (13%)」、「だいたいできる (54%)」、「あまりできない (30%)」、「できない (3%)」と回答していることから、ほぼ妥当な結果であると思われる。

### 3. まとめと今後の課題

今回の調査において、明らかになったことをポイントとしてまとめると次の 3 点である。

- ・学生は、保育者を目指す者の常識について、自身を高く評価している。
- ・自身の常識と、園での常識にギャップを感じていることも多い。
- ・学生にとって、本当に常識が未形成な部分もあれば、園の常識が学生の生活実態そのものと大きくずれている部分がある。

では、これらをどのように今後の学生指導に生かしていくことがよいのか。

これまで学生が、各家庭や自分の考えに基づいて培ってきた常識を、短大の 2 年間（あるいは大学の 4 年間）で何とかしようというのは大変な難題である。

そのような中で、課題としては、学生たちに、「園側は、学生に対し、保育者としての高い教養や倫理観をもっていることを望んでおり、子どもや保護者から“先生”と呼ばれ、責任ある職業に就こうとしていることから、学生が思っているよりも、厳しい視点で評価しようとして

いる。そして、常に向上心や研究心をもって自己研鑽に努めることが求められる。」と、指導していくことが必要であろう。

また、その一方で園と学生の生活実態とがかけ離れている部分については、園の常識そのものを問い直すということもあってもよいのではないかと思われる。

#### 引用文献

- 1) 中田周作:保育者養成への社会的要請に関する自由記述の分析, 中国学園紀要, 7, p.121 (2008)
- 2) 同上, p. 127 (2008)
- 3) 同上, p.127 (2008)
- 4) 今さら聞けない、正しい雑巾の絞り方  
<http://allabout.co.jp/gm/gc/220690/> 2012 年 8 月 26 日アクセス
- 5) 谷田貝公昭・上野通子『これだけは身につけたい保育者の常識 67』, 一藝社, p.1-143 (2006)

#### 参考文献

- 上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著:『考え、実践する教育・保育実習』保育出版社 (2011)
- 玉置哲淳、島田ミチコ監修:『幼稚園教育実習』建帛社 (2010)
- 山岸道子編著:『保育所実習』ななみ書房, (2007)
- 小川清美編著:『幼稚園実習』ななみ書房, (2006)
- 森上史朗、大豆生田啓友編:『幼稚園実習保育所・施設実習』ミネルヴァ書房, (2004)
- 大橋喜美子編著:『はじめての保育・教育実習』朱鷺書房, (2003)